

ロシア連邦連邦院の招待による同国公式訪問及び各国の政治経済事情等視察  
参議院外国議会訪問議員団報告書

団	長	参議院議員	松山	政司
		同	榛葉	賀津也
		同	谷合	正明
		同	井上	哲士
		同	室井	邦彦
同	行	委員部第五課長		
			高野	智子
		参事	山下	慶洋

### 一、始めに

本議員団は、ロシア連邦連邦院の招待により同国を公式訪問するとともに、各国の政治経済事情等を視察するため、平成二十九年七月十六日から二十三日までの八日間、ロシア連邦、スウェーデン王国及びアイスランド共和国の三か国を訪問した。

日程は次のとおりである。

七月十六日（日）

東京発モスクワ着

七月十七日（月）

マトヴィエンコ連邦院議長との会談

在留邦人との意見交換

エピファノヴァ国家院副議長との会談

ヴォスクレセンスキー経済発展次官との会談

コサチョフ連邦院国際問題委員長との会談

七月十八日（火）

有識者との懇談

モスクワ発ストックホルム着

七月十九日（水）

スウェーデン国会議事堂視察

フォン・シドヴ国会議員との会談

在留邦人との意見交換

フォシュルンド国会外務委員長との会談

七月二十日（木）

ストックホルム発レイキャヴィク着

ビャルナソン国会外務副委員長との会談

アイスランド国会議事堂視察

ヘトリスヘイジ地熱発電所視察  
七月二十一日（金）  
シングベトリル（中世・部族会議場跡）視察  
フリーズヘイマル農場視察  
七月二十二日（土）  
レイキャヴィク発ヘルシンキ着  
ヘルシンキ発  
七月二十三日（日）  
東京着

## 二、会談等の概要

### （一）ロシア連邦

ロシア連邦国会は連邦院（上院）及び国家院（下院）から成る。連邦院は、八十五の連邦構成主体から各二名（行政府代表及び立法府代表各一名）が議員として選出されるほか、ロシア連邦代表枠として大統領が最大十七名の議員を任免することができる。任期は連邦構成主体の首長又は議会議員の任期に準じるため一律ではないが、多くは四、五年となっている。国家院は、定数四百五十名、任期五年で、選挙は小選挙区と比例区が半々で行われる。

日露関係については、近年、首脳会談が度々行われるなど活発化している。昨年十二月には、日露経済交流の促進に向け日本側から提示した八項目の協力プランの具体化の推進を確認した。また、北方四島における日露共同経済活動に関する協議開始を合意し、本年六月から七月にかけ、北方四島において官民調査団の現地調査が実施されたところである。

#### 1 ヴァレンチナ・イヴァノヴナ・マトヴィエンコ連邦院議長との会談

議員団は、マトヴィエンコ議長のほか、コサチョフ連邦院国際問題委員長、リャザンスキー連邦院社会政策委員長、リャブーヒン連邦院予算・金融市場委員長及びメーゼンツェフ連邦院議員と会談を行った。マトヴィエンコ議長は、昨年十月から十一月にかけて本院招待により訪日し、伊達忠一参議院議長等と会談している。

マトヴィエンコ議長から、本議員団に対し歓迎の意が示されるとともに、改めて伊達参議院議長の訪露招請があった。松山団長は、これに対し感謝の意を表した後、本議員団は参議院と連邦院の関係を強化すべく訪露したものであると挨拶した上で、伊達参議院議長からマトヴィエンコ議長への書簡を手交した。

マトヴィエンコ議長から、近年は特に参議院自由民主党・日露議員懇話会（懇話会）と連邦院露日議会間・地域間協力支援協議会（協議会）の間で協力が進んでいるが、連邦院は参議院の他党との関係も重視しており、その観点からも超党派の本議員団の連邦院訪問を歓迎している。また、二国間だけでなく、列国議会同盟等の場を活用した多面的な議会間協力を強化すべきである。関係を進展させ

る上で重要なのは常日頃より交流を行うことで、頻繁に会えば相互理解も進み、個人的関係が深まれば、議会間の友好関係も進展するとの発言があった。

松山団長から、参議院自由民主党だけではなく、参議院各党各会派と連邦院の協力が進むことが重要であり、今回の本議員団の訪露が、参議院と連邦院の協力関係強化に向けた大きな一歩となることを期待しているとの発言があった。

マトヴィエンコ議長から、貿易・経済関係では、八項目の協力プランの具体化に向け協力が進められているが、人々が実際に成果を感じられることが重要である。両国国会は、二重課税防止など、両国関係を進展させるための法的な基盤強化の面でも重要な役割を果たすことができるとの発言があった。

松山団長から、我が国は領土問題を解決したいとの意欲を持ち、日露関係の進展に真剣に取り組んでおり、平和条約締結に向けて、議会間の信頼関係に基づき政府間交渉を更に後押しする必要があると考えている。八項目の協力プランについては、その具体化を前進させ互恵的な経済関係を発展させることを首脳間で合意しており、議会としてもこれを支援したいとの発言があった。

マトヴィエンコ議長から、平和条約は、全面的な関係強化、国民同士の信頼の強化を通じて進められなくてはならず、双方の利益の合致が必要である。この観点から、日露共同経済活動の協議が進行していることは重要との発言があった。

## **２ オリガ・ニコラエヴナ・エピファノヴァ国家院副議長との会談**

エピファノヴァ副議長から、日本はアジア太平洋の重要な隣国であり、両国の協力により、ロシアの地方の発展を安定化させることができる。ロシアの各地方の有権者を代表する国家院議員として、最近の二国間関係の発展を高く評価している。本議員団の訪問により、両国の信頼関係が一層発展していくことを期待する。友好的交流だけでなく、委員会レベルで喫緊の課題について意見交換することも重要と考える。また、先般、韓国で各国議会関係者の国際会議が行われたが、このような多国間の国際交流の場でも日本と協力し、政治、経済、人的交流、民間外交等の促進に寄与していくことを期待しているとの発言があった。

松山団長から、近年活発な首脳間対話が行われ、様々な分野で両国の協力が発展している中、参議院と国家院の交流も更に進めたい。我々は、領土問題を解決すべく二国間関係の発展に努力しているところであり、議会間の信頼関係の構築が、平和条約締結に向けた首脳間の対話を後押しする意味でも重要と考えているとの発言があった。

このほか、エピファノヴァ副議長から、自身の政界入りにかつて訪日したことが影響しているとの紹介があったほか、日本の高い品質管理への評価や男女平等の推進について言及があった。

## **３ コンスタチン・イオンフォヴィッチ・コサチョフ連邦院国際問題委員長との会談**

議員団は、コサチョフ委員長のほか、リャブーヒン連邦院予算・金融市場委員長、クリモフ連邦院国際問題副委員長及びメーゼンツェフ連邦院議員と会談を行

った。

コサチョフ委員長から、本議員団の訪問により、議会間の交流が自由民主党だけでなく超党派に広がり、活性化されたことを歓迎する。このように議会間交流が活発化していることを国民に知ってもらうことも重要である。本質的な部分は首脳間で決められるとしても、その結果を出すプロセスに議会は関与していくべきとの発言があった。

松山団長から、マトヴィエンコ議長等との会談においても、議会間交流拡大への期待を感じた。懇話会と協議会の間では既に良好な関係が構築されているが、参議院と連邦院の関係も更に発展することを期待するとの発言があった。

このほか、リャブーヒン委員長はロシア極真空手連盟名誉総裁であり、また、来年はサッカーワールドカップがロシアで開催されることから、空手やサッカー等スポーツを通じた交流の重要性について、日露議員間の意見が一致した。

#### 4 スタニスラフ・ヴォスクレセンスキー経済発展次官との懇談

ヴォスクレセンスキー経済発展次官から、日露関係は政府間、議会間から企業間へとこれまでにない規模で進展している。また、我々は地域間交流も重視している。二〇一八年は日露の相互交流年であり、交流が更に増えることは間違いない。現在までのところ貿易量の増加等はさほど多くないが、両国で協力して結果を出すことが重要であるとの発言があった。

松山団長から、経済発展省が八項目の協力プランの実現に向け尽力していることに感謝する。参議院としても、八項目の協力プランの実現や相互交流年成功のため後押しをしたいとの発言があった。

#### 5 有識者との懇談

議員団は、国際問題の専門家であるアレクサンドル・アレクサンドロヴィッチ・ディンキン世界経済国際関係研究所（I MEMO）会長及びアンドレイ・ヴァデーマヴィッチ・コルトゥノフロシア国際問題評議会事務局長と懇談した。

日露関係について、ディンキン会長からは、両国間には困難な問題があるが、まずは良好な部分から進めることは、全体に良い影響を与えるとの発言があった。コルトゥノフ事務局長からは、日露首脳間でこれほど緊密な接触があった時期はなく、大きな前進が可能ではないかとの期待はある。今後は、具体的な問題を議論していく中で、両国における期待感をコントロールすることが重要との発言があった。

このほか、ロシア内政、北朝鮮問題、露米関係、露中関係等について意見交換が行われた。

## （二）スウェーデン王国

スウェーデン国会は一院制（定数三百四十九名、任期四年）であり、選挙は全議席比例代表制（ほぼ県単位の選挙区）を採用している。

### 1 ビョーン・フォン・シドヴ国会議員との会談

フォン・シドヴ議員（社民党・与党）は、二〇〇二年から二〇〇六年まで国会議長を務め、貿易大臣や国防大臣などの要職も歴任している。現在は、二〇二一年以降の国のトータル・ディフェンスの方向性を検討する防衛及び安全保障検討委員会委員長である。

議員団は、本会談に先立ち、スウェーデン国会議事堂内を視察した。

会談では、フォン・シドヴ議員から歓迎の意が示された後、スウェーデンの政治情勢に関する説明があった。同国には、伝統的に左右のブロックに分かれた五つの政党があり、その中で、約四十年にわたり社民党が政権を握ってきた。しかし、一九八〇年代以降、新しい政党が国会に議席を獲得するようになり、現在は、社民党及び環境党が少数連立政権を樹立している。これら連立与党及び政策の近い左翼党が赤緑連合と呼ばれ、議席の約四割を占める一方、中道右派連合（穏健党ほか三党）が約四割、移民規制強化を主張するスウェーデン民主党が約二割の議席を持つ。赤緑連合が過半数を持たない中、二年前に政府予算が否決されたことがあり、この秋から始まる二〇一八年予算審議が当面の課題であるとのことであった。

松山団長からは、来年、日スウェーデン外交関係樹立百五十周年を迎える中、両国の議会間交流の更なる発展を期待するとの発言があり、議員団からは、アジアの安全保障を考える上でも、本年共に国連安保理非常任理事国を務める日本とスウェーデンの協力関係は重要であるとの発言があった。

議員団から、現在は少数与党ということだが、過半数を確保するために他党とも連立を組むことは考えないのかとの質問があった。フォン・シドヴ議員から、スウェーデンでは、相対的過半数、すなわち賛成数が反対数より多ければ、賛成数が五〇％以上に達していなくても法案を可決でき、それが少数与党でも政権運営が可能である理由の一つである。また、社民党と密接に協力する政党は大きく支持を失う傾向があることにも留意する必要があるとの発言があった。

議員団から、スウェーデンは総選挙の投票率が前回八六％であるなど非常に高い理由について質問があり、フォン・シドヴ議員から、国民が投票しやすいように制度を整えたこと、戦後、社会福祉が大きな政治テーマとなり女性の投票が増えたこと、現在は移民問題に関心を寄せる者が多く投票するようになったことがあるとの発言があった。

## 2 ケネス・フォシュルンド国会外務委員長との会談

フォシュルンド委員長（社民党・与党）から歓迎の意が示された後、同委員長は本年三月に訪日したが、参議院外交防衛委員長等と会談を行ったほか、長崎を訪問し被爆者と懇談を行うなど貴重な機会となったとの発言があった。

議員団から、北朝鮮の核・ミサイル問題は危機的状況であり、また、日本には拉致問題もあるが、国際社会の対応は足並みがそろっているとは言えないとの発言があり、フォシュルンド委員長から、北朝鮮に対しては、短期的には核開発のための資金や技術の提供を完全に絶つことが必要だが、同時に、これは簡単な課

題ではないが、政治的対話も必要と考えているとの発言があった。

議員団から、日本はどの国よりも核兵器廃絶を目指している国である一方、現実の脅威に直面しており、核兵器禁止条約の交渉に不参加であるが、核保有国と核非保有国を橋渡しする役割があると考えており、スウェーデンにも協力してもらいたいとの発言があり、フォシュルンド委員長から、自身は核兵器禁止条約に前向きな立場で、秋の国会で同条約批准に向け議論が行われる予定だが、一部野党は反対するかもしれない。日本の置かれている特別な立場は理解するとの発言があった。

### (三) アイスランド共和国

アイスランド国会（アルシング）は一院制（定数六十三名、任期四年）であり、選挙は全議席比例代表制（選挙区は六）を採用している。

#### 1 ヴィルヒャルムル・ビャルナソン国会外務副委員長との会談

議員団は、ビャルナソン副委員長（独立党・与党）のほか、グズムンドソン議員（左派緑運動・野党）、グンナルスドッティル議員（進歩党・野党）、フリズリクソン議員（改革党・与党）、ハーラルズドッティル議員（独立党・与党）、エイナルソン議員（独立党・与党）と会談を行った。ビャルナソン副委員長及びグンナルスドッティル議員は、昨年の日・アイスランド外交関係開設六十周年に当たり、日アイスランド友好議員団の一員として訪日している。

ビャルナソン副委員長から、歓迎の意が示されるとともに、アイスランド国会は世界最古の国会と言われており、その歴史に誇りを持っていること、昨年訪日した際には温かいもてなしを受け、また、身の回りに日本製品も多く、日本に対して敬意を持っていること、日本で行った数々の会談の中では、特に男女平等の推進が求められていると感じたとの発言があった。

松山団長からは、両国は島国かつ火山国であること、水産・捕鯨国であること、安全保障分野を始め欧米各国と緊密な協力関係にあること、さらには長寿国であることなど多くの共通点があり、両国の協力関係及び議会間交流が一層促進されることを希望しているとの発言があった。

アイスランド側から、北極政策に関し、北極評議会（北極圏に係る共通課題に関し、北極圏八か国間の協力・調和・交流の促進を目指すもの。日本はオブザーバーとして参加。）等で日本と協力したい。温暖化問題、天然資源の利用、北極航路の開発など日本にとっても取り組む価値は高いとの発言があった。議員団から、北極圏の可能性に期待しており、提案に賛同するとの発言があった。

議員団から、アイスランドは世界一男女格差が小さい国とされており、国会議員の女性比率は四七・六％であるところ、議員の男女比がほぼ均等を達成した理由について質問があった。アイスランド側からは、政党が自発的にクオータ制を導入していることの説明がある一方、アイスランドにおいても男女平等はいまだ不十分であり、例えば父親の育児休暇取得率向上や男女の給与格差解消などが必

要であるとの発言があった。

ビャルナソン副委員長から、日アイスランド自由貿易協定を締結することは両国にとって利益があり、アイスランド国会として協定締結に向けた交渉を促す決議を行ったとの説明があった。また、両国において租税条約締結の手続が進行中であるが、将来的に航空協定締結も希望すること、さらにはハンドボール日本代表監督がアイスランド人であることにも言及があり、友好関係を今後も発展させたいとの発言があった。

会談後、ビャルナソン副委員長の案内でアイスランド国会議事堂内を視察した。

また、議員団は、シングベトリルを視察した。同地は、九三〇年に世界で初めて一般民衆も参加が許された民族会議（アルシング）が開かれた場所で、アイスランド国会は、一七九八年まで同地で開かれていた。

## 2 地熱の活用

アイスランドは北米プレートとユーラシアプレートの境界に位置する火山国であり、地熱を再生可能エネルギーとして積極的に利用している。同じく火山国である日本とは地熱分野で長く協力関係にあり、アイスランドの地熱発電のタービンは、ほぼ全てが日本製である。

議員団は、ヘトリスヘイジ地熱発電所を視察し、同発電所を所有するレイキャビクエナジーのビャルナソン最高経営者から、地熱発電の仕組み、同発電所の特徴や今後の展望等について説明を受けた。同最高経営者は、アイスランドにおいてもエネルギー企業は男性優位であったが、金融危機の際、経営改革の観点から男女平等を進め、それが企業としてより良い意思決定と職場環境をもたらしていることを強調していた。

また、北極圏に領土を持つアイスランドにおいて、地熱温水（地熱発電所からの温排水を含む）は暖房に使用されている。議員団は、地熱温水を利用した温室で一年中トマト栽培を行うフリーズハイマル農場を視察した。

## 三、終わりに

外国議会訪問班は、議会間交流のため本年度より新たに設けられた班であるが、今回、ロシア連邦連邦院議長を始めとする各国の議員や政府要人との会談を行い、国政の重要課題等について相互理解を深め、日本と各国の議会間交流の一層の推進及び友好親善に寄与することができた。特に、ロシアとの間ではいまだ領土問題が存在する中、日露議員間において、国民を代表する議員同士の対話を進めることは、政府間対話を後押しするという観点からも重要であるとの認識が共有されたことは、非常に有益であったと考える。

また、モスクワ及びストックホルムでは、それぞれ日系企業で責任ある立場にある在留邦人の方々と懇談し、両国の社会経済事情、事業展開の現状と課題、議会・政府への要望等について意見交換を行い、認識を新たにすることができた。

今回の訪問に際し、各国議会及び訪問機関の関係者、並びに上月豊久在ロシア

大使、山崎純在スウェーデン大使、北川靖彦在アイスランド大使及び山本条太在フィンランド大使を始め、在外公館員等多くの方々から多大なる支援を得た。お世話になった皆様に対し、この場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。